

考古学からみた 古代東アジアの馬利用

中村 大介

埼玉大学大学院人文社会科学研究所

「ウマの家畜化——騎乗までの道程」

岡村 秀典

京都大学人文科学研究所

「駿馬と鈍牛——中国古代の車文化史」

菊地 大樹

蘭州大学歴史文化学院

「牧馬の育成——中国古代養馬史の再構築」

向井 佑介

京都大学人文科学研究所

「馬車から騎馬へ——胡服騎射から舞馬・擊毬まで」

諫早 直人

京都府立大学文学部

「鐙の出現——騎馬東伝の原動力」

司会
篠原 徹

国立歴史民俗博物館名誉教授

講評
白石 典之

新潟大学人文学部

11月21日(日)

10:00~17:00

事前登録が必要です【聴講無料】



[https://zoom.us/webinar/register/
WN_4NSPr4yeTuOQarHBrZrnUA](https://zoom.us/webinar/register/WN_4NSPr4yeTuOQarHBrZrnUA)



主催

京都大学人文科学研究所

お問い合わせ

京都大学人文科学研究所 総務掛

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-6902 (月~金 9:00~17:00)

mail: z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp

<https://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>

※登録後、登録していたメールアドレスに視聴用URLが送信されますので、当日はそのURLにアクセスをお願いいたします。
※登録は前日まで受け付けますが、希望者多数の場合、事前に登録を打ち切ることがあります。

開催にあたって

東アジアで最初に馬を家畜として利用したのは中国です。

その始まりは殷代後期にまで遡り、古墳時代に始まる日本列島の馬利用よりも遥かに長い歴史をもっています。しかしながら家畜馬も、彼らが曳く車も、ユーラシア西方に起源があり、中国における馬利用はそれらを二次的に受容して始まったものでした。その後、馬車から騎馬へと中国の馬利用が大きく変化していく中で、騎馬を中心とする馬利用が中国周辺の諸地域に急速に拡散していきます。朝鮮半島を介して伝わったとみられる日本列島の馬利用は、この変化の最終局面であり、それぞれ三次的、四次的受容として理解することができます。

このように古代における馬利用の展開は、一見すると各地で独自に展開したようにみえがちなユーラシア諸地域の歴史や文化を横につないで理解する上で重要な鍵となります。

本シンポジウムでは、考古学の最新の成果をご紹介しつつ、中国を中心とする古代東アジアの馬利用について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

講師

中村 大介

NAKAMURA Daisuke

埼玉大学大学院人文社会科学研究科 准教授

専門 ユーラシア考古学

主著 『弥生文化形成と東アジア社会』（塙書房、2012年）ほか

岡村 秀典

OKAMURA Hidenori

京都大学人文科学研究所 教授

専門 中国考古学

主著 『東アジア古代の車社会史』（臨川書店、2021年）ほか

菊地 大樹

KIKUCHI Hiroki

蘭州大学歴史文化学院 教授

専門 中国考古学・動物考古学

主著 『馬の考古学』（共編著、雄山閣、2019年）ほか

向井 佑介

MUKAI Yusuke

京都大学人文科学研究所 准教授

専門 中国考古学・歴史考古学

主著 『中国初期仏塔の研究』（臨川書店、2020年）ほか

諫早 直人

ISAHAYA Naoto

京都府立大学文学部 准教授

専門 東北アジア考古学

主著 『東北アジアにおける騎馬文化の考古学的研究』（雄山閣、2012年）ほか

司会

篠原 徹

SHINOHARA Toru

滋賀県立琵琶湖博物館名誉館長・国立歴史民俗博物館名誉教授

専門 環境民俗学・生態人類学

主著 『海と山の民俗自然誌』（吉川弘文館、1995年）ほか

講評

白石 典之

SHIRAISHI Noriyuki

新潟大学人文学部 教授

専門 モンゴル考古学

主著 『モンゴル帝国史の考古学的研究』（同成社、2002年）ほか